

(事後評価)

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：令和元～令和6年度)

代表機関：島根大学（総括責任者：大谷 浩）

共同実施機関：島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校

### 取組の概要

本事業では、高等教育機関4機関が連携して、地域に根差しつつ、国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築し、山陰全域のダイバーシティ推進を牽引する。

1. ダイバーシティ研究環境の整備強化
  - ・ダイバーシティ推進のためのネットワークを組織する。
  - ・ネットワークを通じて、知見の共有と情報発信を行う。
  - ・ダイバーシティへの意識啓発活動を行う。
  - ・各機関の実情に即したダイバーシティ研究環境を整備する。
2. 女性教員の積極採用と上位職登用
  - ・全学的計画にもとづき、女性教員を積極的に採用する。
  - ・各機関の実情に応じたポジティブアクションを強化する。
3. 女性研究者の裾野拡大
  - ・理系研究者の裾野拡大に取り組む。
  - ・学部生向けキャリアデザイン支援を行う。
  - ・社会人向け大学院進学支援を行う。
4. 女性研究リーダー育成
  - ・研究力向上のための取組を行う。
  - ・マネジメント能力向上のための取組を行う。

### (1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 取組 | 取組の成果 | 実施体制 | 実施期間終了後の取組の継続性・発展性 |
|------|-------|----|-------|------|--------------------|
| B    | b     | a  | a     | b    | b                  |

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

### (2) 評価コメント

山陰地域の国立大学、公立大学、2つの工業高等専門学校の4機関が連携し、地域の特性を踏まえつつ、女性研究者を取り巻く研究環境整備、女性研究者の研究力強化とキャリア形成支援、組織的な意識改革、次世代育成など多角的に取組を展開した。山陰地域のダイバーシティ推進ネットワーク「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」の構築による地域全体を巻き込んだダイバーシティ推進基盤の整備、次世代たたら協創センターとの連携による世界最先端研究を通じた女性研究リーダー育成、e ポートフォリオシステムの活用など特色ある取組を推進し、山陰地域

におけるダイバーシティ推進環境を充実させ、女性理事や理学・工学系を含む14名の女性教授を誕生させるなど一定の成果を挙げた。しかしながら、上位職教員の女性比率など未達の目標が多く、また、代表機関の島根大学と3共同実施機関との連携、特に2つの工業高等専門学校との連携による相乗効果が明確でない。今後は、「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」に参画する機関が抱える課題を共有し、その解決へ向け4機関が中心となり取り組むことを期待する。

- **目標達成度：**4機関が連携し、環境整備や「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」の構築に係る目標を達成した。しかしながら、共同実施機関の島根県立大学はすべての数値目標を達成したものの、連携する他3機関は、女性研究者在職比率や上位職登用などに係る数値目標を達成できなかった。今後は、各機関において、目標達成に至らなかった要因を分析し、目標達成へ向け実効性の高い取組を実施することを期待する。
- **取組：**女性研究者を研究代表とする共同研究を支援する「女性研究リーダー育成支援事業」の構築や研究助成情報検索システムの開設による研究力向上支援、次世代たたら協創センターとの連携による世界最先端研究を通じた女性研究リーダー育成、eポートフォリオシステムの活用によるキャリアアップ支援、学部生向けキャリアデザイン支援など特色ある取組を多面的に実施したことは評価できる。また、連携する4機関が中心となり、山陰地域の361機関が参画する「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」を構築し、地域連携を介して女性研究者の活躍推進を図ったことは評価できる。
- **取組の成果：**女性優先・限定公募を積極的に実施し、女性教員及び女性教授を増加させ一定の成果を挙げたこと、また、科研費等の外部資金獲得件数や発表論文件数の増加など女性研究者の研究力強化、代表機関における女性理事の誕生といった成果が見られたことは評価できる。さらに、「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」参画機関へ波及効果を及ぼし、女性研究者・技術者を増加させる成果を挙げたことは評価できる。
- **実施体制：**代表機関の学長のリーダーシップの下、各機関のダイバーシティ推進室等の事業実施母体が連携して事業を推進する体制は評価できる。しかしながら、代表機関と共同実施機関、特に工業高等専門学校との連携による効果が見えにくい。今後は4機関が問題意識を共有し、連携による相乗効果が上がるよう改善を図ることを期待する。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性：**実施期間終了後も「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」を継続していることは評価できる。しかしながら、これまでの取組の継続に向けた明確な財源確保や実行計画についてはやや不透明な点が残る。今後は、「SAN' IN ダイバーシティ推進ネットワーク」を活かした、山陰地域における持続的な取組の展開を期待する。